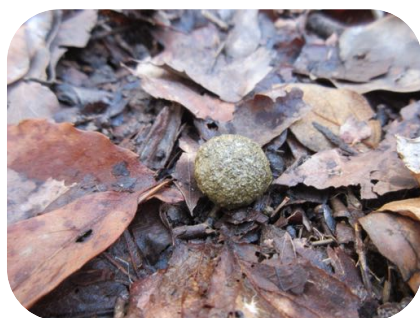
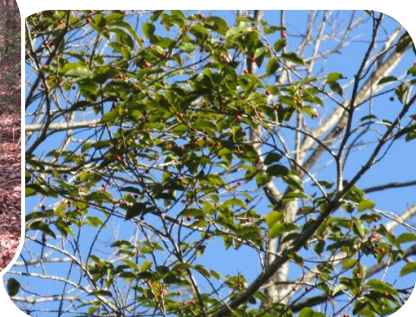


ありまふじ里山だより

Vol.20

『ありまふじ里山だより』では、棚田里山エリアの自然の様子や里山保全に向けた取り組みについてご紹介します。Vol.20は里守の会の活動の様子と炭焼きの様子についてお届けします。



里守の会、活動日！

寒い中にも春らしい陽気が感じられます。この日の作業では、適度に常緑樹を残しつつ間伐を進めていきました。その理由はいきものとの共存。頭上を見上げると、ソヨゴの赤い実がたくさんなっていて、これが野鳥にとって餌の少ない冬の時期の貴重な餌になるのだとか。

いきものネタでもう1つ。作業の合間に見つけたこれらの糞。さあ、何の動物のものかわかりますか？

炭焼きの始まり

かやぶき民家の裏には炭焼き窯があり、毎年炭焼きがおこなわれています。

園内作業や里山で出た伐採木を薪にして、まずは窯入れ。窯の入り口までびっしりと詰め込みが終わったところで、いよいよ火入れです。点火したあとは風をどんどん送り、窯全体に火がまわるように火の勢いを強くしていきます。このあとタイミングをみて、蓋をすれば本格的な炭焼き工程に入ります。どんな炭が焼きあがるのか、窯出しが今から楽しみです。

